

受験番号	
------	--

平成31年度 推薦・指定校推薦入学試験 小論文課題

〔設問〕

次の文章を読んで、下線の部分についてのあなたの考え 800 字以内で述べなさい。

果たして私がこの家を守っていけるのだろうか、と悩んでいたときに、歌論書である「古来風躰抄」を時間をかけてゆっくりと見ることができました。字には品格があり、美しいだけでなく力強さを感じました。よく見ると本の下方両端の隅が黒く、丸くなっています。その時、私の体に衝撃が走りました。この書を定家卿、為家卿、為相卿などの祖先たちが実際に読み込み、自らの体に取り込んでいったことが分かったからです。そして、俊成卿から「冷泉家とその文化をよろしく頼む」といわれたように感じたのです。

数々の秘伝の書が、伝えようとするのは「型」です。芸術は模倣から始まるなどと言われますが、歌道も同じです。日本の文化は、茶道、華道、武道と「型」を非常に大切にするものばかりです。「型」があるからこそ個性が生まれます。「型破り」とはまさに、この「型」を会得した上で「破る」ものであり、闇雲に自由きままにすることではないのです。

私自身の歩みを振り返ってみてもひたすら「型」を学ぶことに務めてきたように思いますし、現在は京都美術工芸大学で学長をしており、学生たちにも「型」を学ぶことの大切さを教えています。

祖先から預かった有形無形の伝統を守ることが私の務めです。この伝統を時代に合わせながらも、どのように継承していくのか。これからも試行錯誤は続くでしょう。しかし、伝統の残り方こそが「歴史」そのものになると、気を引き締めているところです。

【冷泉為人 「冷泉家の宝」文藝春秋より抜粋】